

陸自撤収 P K O 議論求める

無職

(埼玉県 69)

政府は、南スーダンの国連

平和維持活動(P K O)に派遣中の陸上自衛隊施設部隊を、5月末をめどに撤収させると決めた。これは、現地の治安状況がP K O 5原則を満たしていないと認めたとようなものではないのか。

振り返ってみたい。昨年11月に派遣した部隊は「駆けつけ警護」など新任務が付与された。直前に稲田防衛相が現地視察して「落ち着いている」と明言してのことだ。

だが今年2月、派遣部隊の昨夏の日報に「戦闘」と明記されていたこと、別の文書にP

K O 停止や隊員が巻き込まれる可能性が指摘されていたことが分かった。

だが、稲田防衛相は国会答弁で「憲法9条上の問題となる言葉は使うべきではないことから武力衝突という言葉を使っている」と述べた。

隊員の生命を顧みようとしない政府の姿勢は、厳しく批判されなければならない。撤収判断について安倍晋三首相は単に「区切り」と言うが、状況判断が正しかったのか、なぜこの時期に撤収するのか明確に説明すべきだ。

そして、憲法9条とP K O 参加が相いれるものか改めて国民的な議論が求められる。